



リスク77倍！食道がん なる人・ならない人

2010年6月30日放送

★ 今回の番組について

「リスク77倍！食道がん なる人・ならない人」

日本人がなりやすく、毎年1万人以上が亡くなっている「食道がん」。リンパ管が近いためにがんが小さいうちから転移してしまう恐ろしいがんだ。

健康診断や人間ドックを毎年受けているから大丈夫、と思ったら大間違い！食道がんはX線検査や内視鏡の検査でさえも早期の段階で発見することは難しく、「進行がん」で見つかるケースが多いのだ。しかも、飲酒をする習慣のある人は、リスクが急上昇することもわかってきた。アルコールが体内で分解され発がん物質であるアセトアルデヒドが大量に作り出されてしまうためだ。特に飲酒すると顔が赤くなる、もしくは飲み始めた頃に赤くなった人は要注意。

毎日3合（日本酒換算）飲むとなんとリスクが77倍にも跳ね上がってしまう！

食道がんになる人、ならない人の分かれ道を探り、予防法から最新対策まで大公開する。

★ 番組ディレクターのひとこと

酒と父と食道がん

食道がんにかかる人は、実は男性が女性のおよそ6倍です。そして50歳代になると数が跳ね上がります。つまり、「お父さん」がなりやすいがんなのです。仕事に明け暮れ、付き合いで飲み、家に帰ってから一息つくために晩酌したら、人によっては食道がんになるリスクが77倍にもなってしまうのです。

この事実を知ってから、すぐに自分の父親に電話をしました。父は「『休肝日』を設ける」と約束してくれました。酒飲みは肝臓に気をつけるよう、というメッセージが込められた「休肝日」ですが、影響を受けるのは「肝」だけでなく食道もなのです。お父さん、「飲んだら（内視鏡を）飲め」をお願いします！

★ オープニングクイズ

問題：逆立ちで液体を飲むとどうなる？

答え：胃まで届く。蠕動(ぜんどう)運動によって胃まで届けられる。

★健診でも見抜けない？

食道がんの大きな特徴は、「**転移**」の**早さ**。食道がんは、内壁が薄くリンパ管までの距離が近いので、がんがまだ小さいうちに他の器官に転移しやすいのだ。

さらに、早期の食道がんは凹凸が少ないため、造影剤がひっかかりにくく、

X線検査では非常に見つけにくい。

また内視鏡でも、もともと小さくわかりにくい上に健康診断など集団検診では多くが**胃を中心に見る**ため、きちんと見てもらえない場合が多い。

健康診断やがん検診に潜む、思いがけない落とし穴を徹底検証！

★発見！ある凍るような事実

酒を飲む習慣がある人は「食道がん」になるリスクが高まることがわかってきている。

アルコールが体内に吸収されると肝臓にある酵素の働きで分解される。すると**発がん物質であるアセトアルデヒド**が大量に作り出されてしまう。

そこで私たちの体にはアセトアルデヒドを分解する別の酵素が配備されているのだが、なぜか食道ではその酵素がほとんど働かない。その結果、食道は大量の発がん物質にさらされ続け、がんができてしまうのだ。

特に酒を飲むと**顔が赤くなる人、あるいは初めて飲んだ頃に赤くなった人**は注意が必要。

酵素が1 / 16しか働かないため、リスクが急上昇するのだ。毎日3合飲んだ場合ではなんとリスクが77倍にもなってしまう。そして**日本人の実に4割**が顔が赤くなるタイプなのだ。

★登場！早期発見の切り札

怖い食道がんも、早期発見できれば治療の際の負担も軽い。

最新の内視鏡では**特殊な青い光**を使って、がん細胞の中の血管をはっきりと見て取り、早期がんを見つけることができる。

さらに、多くの施設で行われているのが内視鏡検査のときに**ヨード液**を使う方法。ヨード液を食道に吹き付けると、食道のグリコーゲンと反応して茶色に染まるが、がん細胞はグリコーゲンをすでに消費してしまっているため、色がつかずピンク色になる。見つけにくい早期がんでもくっきりと浮かび上がる。早期で見つければ、あとは簡単に切除できる。

